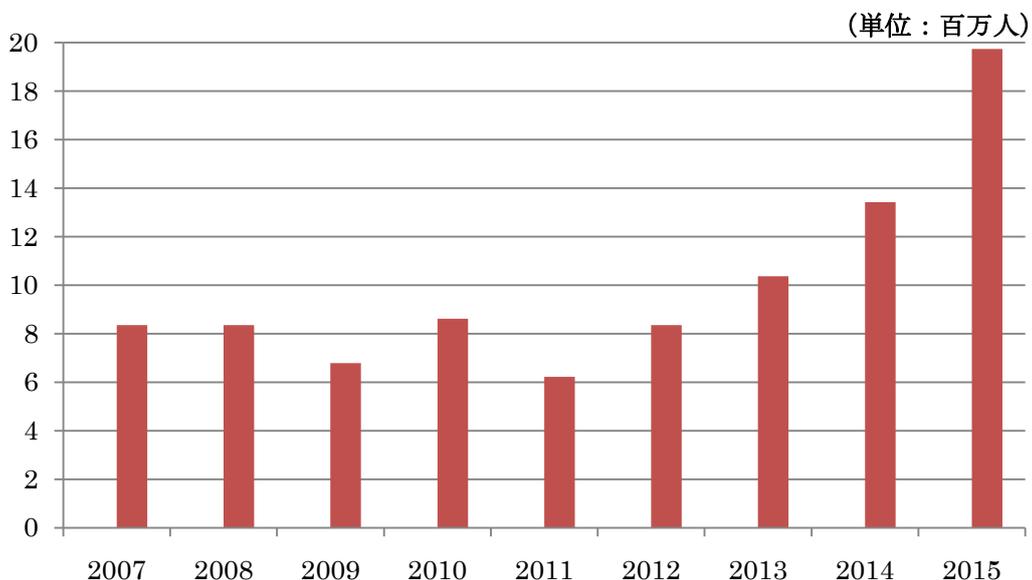


富山のインバウンド旅行者

ここ数年、日本を訪れる外国人が大幅に増加しています（図表1）。政府は、東京オリンピックが開催される2020年までに、年間の訪日外国人数を2,000万人にまで増やす目標を立てていましたが、2015年度の同数は1,973万人に達し、5年前倒しで目標を達成したとあってよいでしょう。訪日外国人の増加により、中国人観光客の「爆買い」に代表されるように、彼/彼女らの消費により景気回復にもかなりの好影響を与えています。新興国の景気動向は気になるところですが、2020年のオリンピックに向けてますます訪日外国人は増えていくと考えられています。

—— 近年の訪日外国人の増加の背景については、アジア諸国を中心とするビザ発給要件の緩和、円安進行、中国等新興国の経済発展に伴う中間層の旅行ニーズの拡大等が指摘されています。なお、訪日外国人数は、2009年、2011年に落ち込みを見せていますが、前者はリーマンショックに伴う世界的な景気後退、後者は東日本大震災が主因と考えられます。

（図1）訪日外国人数の推移



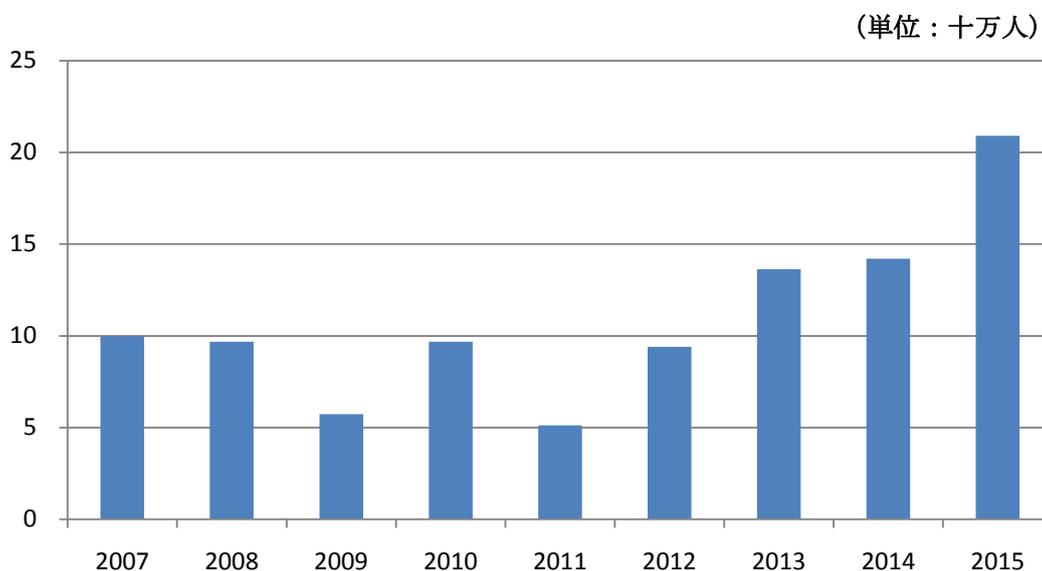
(出所) 日本政府観光局 (JNTO)

富山県を訪れる外国人旅行者数も増加しています。観光庁が公表している、

¹ 本稿で示された意見等は筆者のものであり、日本銀行の公式見解ではありません。

宿泊旅行統計調査で富山県の外国人延べ宿泊者数²をみると、訪日外国人数と同様に2012年以降一貫して増加しており、2015年には前年を5割方上回る20.9万（試算値）³に達しています（図表2）。

（図表2）富山県の外国人延べ宿泊人数



（出所）観光庁：宿泊旅行統計調査

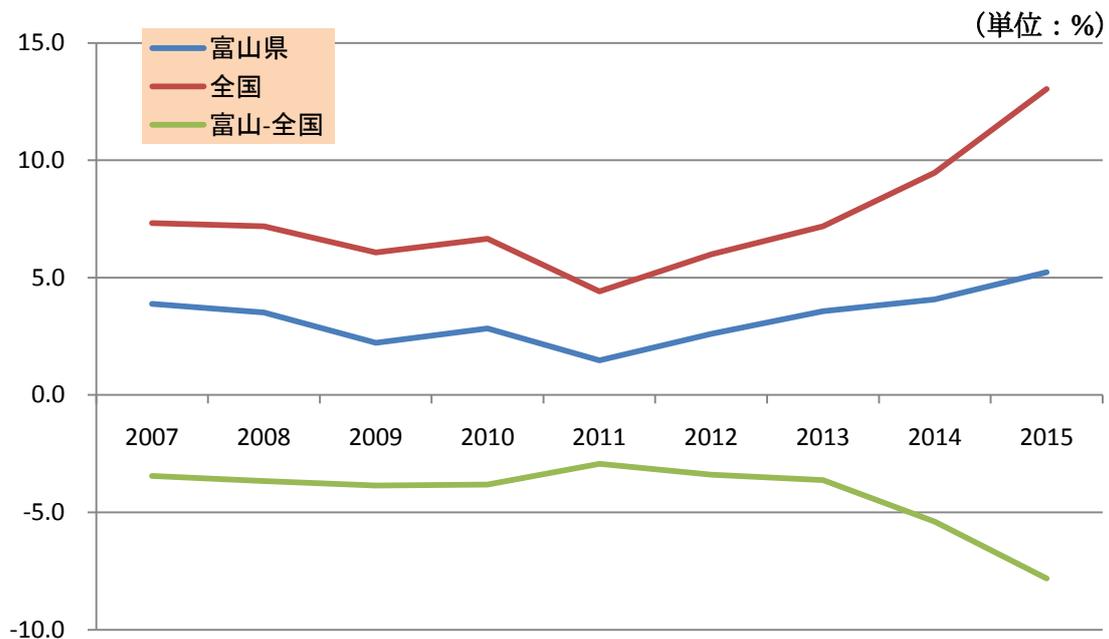
このように富山県を訪れる外国人旅行者の数は順調に増えています。台湾、韓国等から富山きときと空港等への直行便を利用した空路からの入込に加え、昨年からは北陸新幹線を利用して首都圏等から（または、金沢から首都圏への帰路に）本県を訪れる外国人も増えていると思われます。実際、富山市の街中やホテル、立山黒部アルペンルート等の観光地では、アジア勢を中心に外国人旅行者の姿をよく見かけるようになりました。これは、本県にもインバウンド消費の好影響が及んでいることを示しています。

一方、やや切り口を変えてみると、多少違った見方もできそうです。延べ宿泊者数全体に占める外国人のシェアを見てみると、本県の外国人比率は傾向的に全国を下回っていることが分かります。さらに、足元では、我が国へのインバウンド旅行者の増加を映じて、全国、本県ともに延べ宿泊者数に占める外国人の比率が上昇していますが、両者の乖離は一層拡大していることが分かります（図表3）。

² 延べ宿泊者数は、宿泊人数×宿泊日数で算出（1人が2泊した場合の延べ宿泊者数は2）。

³ 本稿を準備している1月26日現在、2015年11～12月のデータはまだ公表されていない。このため、2015年の値は同年1～10月の延べ宿泊者数の前年同期比（+47.1%）を2014年の年間値に乗じて算出。

(図表 3) 延べ宿泊者数に占める外国人の比率の推移



こうした状況は、本県はまだ増大するインバウンド旅行者を十分には捕まえ切れていない（他地域に流れてしまっている）ことを示しているということもできます。これは、いわゆる「ゴールデンルート」⁴に入っていない地方の共通した課題でもあります。もっとも、見方を変えれば、これは本県にはインバウンド旅行者を取り込む余地が大きいということでもあり、取り組み次第でインバウンド効果をより高めることができるということを示しています。

具体的な取り組みについては、紙幅の制約もあり他の機会に譲りますが、自らが海外に行ったときに困ったこと、助かったことを念頭に置いて対応していくのが第一歩ではないでしょうか（英語の案内や解説の充実等）。その上で、文化、習慣の違いを踏まえた対応を加味していく（イスラム教徒に対するハラール対応等）というステップと思います。また、言うまでもなく二次交通の整備といった旅行者全般に関係する対応を着実に続けていくことも大切です。

上記の取り組み等により、本県を訪問する外国人がさらに増えて世界中に富山ファンが増えていけばと考えています。現在、インバウンド旅行者が増加するというトレンドの中にいますし、本年5月にはサミットの環境相会合のため、発信力のある立場の外国人が多数来県します。前向きな取り組みに力を入れる良いタイミングではないでしょうか。

以上

⁴ とくに中国人旅行者には、成田空港から入国し、東京周辺の観光スポットを巡ってから、箱根、富士山、名古屋等を経由して関西を観光し、関西空港から帰国するというパターンに人気があるとされています。